

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 054	提案機関名 農業技術センター
要望問題名 苗物用土の適正な配合技術のマニュアル化	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当管内においては、パンジーやビオラなど苗物を年間20～100万ポットを生産する苗物生産者が十名以上おり、さらに増加することが予想される。 苗物の培養土は赤土を中心に腐葉土や堆肥、ピートモス、鹿沼土、モミガラ、ヤシガラなど様々な資材を様々に配合して利用している。配合にあたっては、物理性および価格の面からそれぞれの生産者が工夫しているが、指標となるべきデータが少ないため苦勞しているのが現状である。 そこで、物理性の改善を目指し、苗物用土の適正な配合技術のマニュアル化に向けて、試験研究をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部土壌環境研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 有機資源の高付加価値化技術の開発 機能性堆肥の有効活用技術の検討 低塩類堆肥の有効活用技術の開発			
対応の内容等 苗物用土の各種資材の配合割合と物理性の評価については、すでに基礎的なデータを収集して検討を始めています。 今後、配合資材の堆肥やピートモス等に代わる新たな資材(低塩類堆肥)の検討も含めて、用土配合技術のマニュアル化に向けた試験研究に取り組みます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			